

LMcorsa

60

OTGGT

GT300



A.Iida



H.Yoshimoto

OTGGT MOTOR SPORTS × INGING MOTORSPORT

RESULT 完走扱いならず / 47周

WEATHER 23日:曇り/ドライ 24日:曇り/ドライ

ENTRY 28台 出走:28台

CAR SYNTIUM LMcorsa RC F GT3

General comment

AUTOBACS SUPER GTシリーズの第4戦、「SUGO GT 300km RACE」がスポーツランドSUGOで開催され、夏休み最初の週末ということもあって、多くの家族連れの観客が見守る中でのレースとなった。

LMcorsaが飯田章と吉本大樹に託した「SYNTIUM LMcorsa RC F GT3」は、岡山国際サーキットで行われた開幕戦で、そして富士スピードウェイで行われた第2戦で、しっかり完走を果たしてきた。と、ここでお気づきのことだろうが、実は間にオートポリスで第3戦を挟んでいるはずだったが、熊本地震の影響でサーキット施設にも少なからぬ損傷があり、当面のレース開催が不可能に。そこで代替レースが、ツインリンクもてぎで行われる最終戦と併せて行われることになったのだ。実に2か月以上もレースが行われなかった一方で、その間には、ここSUGOと鈴鹿サーキットで公式テストがあり、しっかりとメニューはこなされてきた。



金曜日午前の公式練習では、まずその確認から始められた。吉本のドライブから始まり、まずはイン～アウトを行った後、本格的な走行が開始される。感触は上々、何度もイン～アウトを繰り返してセットアップを進め、吉本は24周を走行し、その過程で1分21秒407を記録する。そして、50分経過後に飯田へとバトンタッチ。最終的なスピードの確認をGT300単独のセッションで行うこととなったが、その直前にSPコーナーインでクラッシュした車両があり、赤旗が出されてしまう。これで終了となる可能性もあったが、幸い7分間の中断の後、計測は再開される。

飯田は果敢にコースを攻め立て、1分21秒074をマーク。最終チェックも完了したところで、チェッカーフラッグが振られることとなった。



予選結果 25th (1'20"649)

予選はノックアウト方式で行われ、GT500とGT300がそれぞれ15分間のQ1を走行し、GT300では上位14台が、続く12分間のQ2に進出を許される。前回に引き続き、Q1担当は吉本。他のサーキットならば、路面状態の向上を待ってピットでの待機も有効ながら、コース幅の狭いSUGOでは赤旗が出ることは、まず大前提としなくてはならない。そこで「SYNTIUM LMcorsa RC F GT3」はアタックの機会を逸さないため、開始と同時にピットを離れていく。

公式テスト時より気温は低く、また硬めのタイヤをチョイスしていたこともあり、アウトラップに加えて3周をウォームアップに充てた吉本。公式練習では壁となっていた1分21秒台をクリアし、20秒699をマークし、次の周には20秒649にまで短縮を果たす。だが、Q1突破の条件は19秒前半とあって、もはやかなわぬと判断。残り5分を切ったところでピットに戻る事となった。

その結果、「SYNTIUM LMcorsa RC F GT3」は決勝レースに25番手から、13列目のグリッドから挑む事となった。



決勝結果 47 laps

未明の雨によって決勝当日早朝の路面は、セミウェットというべき状態になっていた。しかも、フリー走行の開始時にはまだ霧雨だったものの、これが始まって間もなく本格的な雨になっていく。とてもドライタイヤでは走れぬ状態となり、やがて全車がウェットタイヤを装着。

ほとんどの車両が不安定なタイムで周回を重ねる中、「SYNTIUM LMcorsa RC F GT3」は、吉本が1分31秒から32秒台のコンスタントタイムを刻んでいく。7周を走って31秒509を自己ベストとした後、ステアリングを飯田に委ねることとなる。飯田もまた好調に6周を走って、記録した30秒135は12番手に相当。むしろ決勝は、雨の中で争われることが望まれた。

だが、その後雨は降ったりやんだりを繰り返し、いったいどちらに転んでくれるのか分からぬ状況に。決勝のスタート進行が始まる頃も小雨がぱらついてはいたが、路面はむしろドライに近い状態だった。結局、恵みの



雨は訪れず、スタート担当の吉本はドライタイヤをチョイスすることとなる。オープニングラップにはいくつかの混乱があったこともあり、まずは3ポジションアップの22番手からレースを開始。4周目には全走車がGT500のトップと絡むアクシデントもあり、またひとつ順位を上げることとなる。そして10周目には20番手に。

一時は集団の先頭を走る格好となっていた吉本ながら、やがて前との差も詰まり、オーバーテイクの期待が高まったものの、なんと20周目に「SYNTIUM LMcorsa RC F GT3」はフロントにダメージを負って、突然ピットに戻ってくる。ペースの安定しない車両の失速を避け切れずに追突、ラジエータを傷めてしまったためだ。

諦めてなるものか！ ドライバーより早くそう判断したのはメカニックだった。何とか完走だけは果たそうと、すぐ修復に取りかかる。その間にSCランがあって、アベレージが下がったのは不幸中の幸い。そして、トップから大きな遅れを取りこそしたが、何とかレースに復帰。計算上では2/3の周回数を満たすことが可能はずだった。飯田も必死にブッシュし、チェッカーフラッグを受けようとしたのだが。

間もなく6周を切ろうというところで、最終コーナーで激しいクラッシュが。ここでSCが入ってくれば、そのままフィニッシュでも規定周回はクリアできたはず。しかし、コントロールポストで出されたのは赤旗！

少ない周回での再開が期待されたが、無情にも終了が告げられる。そのため、2周足りず完走扱いとはならなかった。

だが、これでまたチームの結末は、深まったのは間違いない。次回の舞台、高速コースの富士は「SYNTIUM LMcorsa RC F GT3」にとって決して得意なコースではないが、思いをひとつに全力を尽くし合うことを、ドライバー、スタッフの全員が誓っていた。



Director's comment



チーム監督

小林 敬一

Keiichi
Kobayashi<http://www.koba-pla.net/>

予選まではトラブルもなく、いい流れで来ていたと思います。決勝は朝のフリー走行が雨で良かったので、恵みの雨を期待したんですけどね。それでも完走目指して、途中まではコンスタントに走ってくれました。それだけに追突が痛い。吉本選手のミスで、それは本人も認めているんですが、追突した車両もその直前タイムがばらついているんですね。だから、追いついていって、ひとつでも順位を上げようとプッシュしていたんですけど、少し気持ちが空回りしてしまったようです。それでもメカニックが頑張って、傷めたラジエータを規定周回内でゴールできるよう、素早く交換してくれたんですが、最後に赤旗が出なければ……。残り5周で終了になったので、我々には2周足りなくなって完走扱いにはなりません。今回はツキがありませんでした……。

Driver's comment 1



ドライバー

飯田 章

Akira
Iida<http://akira.jp/>

クルマ的にはSUGOがいちばん可能性あったので、朝のフリー走行は雨で、そこそこ行けたから『決勝も雨だといいなえ』って話をしていたんですけどね。SUGOの長いストレートは下りだし、他のコースよりはコーナリングやドライバーでカバーできるので。まあ、アクシデントはあったけど、メカニックのみんなが今回も本当に頑張ってくれて、それを讃えてあげたいです。完走ならずで終わってしまいましたが、3年目のチームの成長ぶり、チームワークは今までいちばん感じられたレースでした。赤旗終了にならなかつたら、良かったんですけどね。残りのレースには、期待を持って挑みたいです。

Driver's comment 2



ドライバー

吉本 大樹

Hiroki
Yoshimoto<http://www.hiroki-yoshimoto.com/>

もったいないことをしてしまったと、反省しています。僕らは絶対に完走をしなくては行けないし、その完走も1周遅れか、2周遅れかでチームポイントも変わってきますから、何とか1周遅れで完走しようとしていたんですが、前のクルマにトラブルがあったのか、思った以上に減速したところに自分が止まり切れず、ちょっと押しちゃったんです。それがラジエータに刺さって、交換しなくてはならないという……。メカニックのみんなが、めちゃくちゃ早くクルマを修復して戻してくれたんですけど、ちょっと足りなかったですね、完走扱いにはなりません。貴重なポイントを自分のミスで失ってしまい、本当に申し訳なく思います。

